

青森県教育委員会第913回定例会会議録

- 1 期 日 令和7年2月5日（水）
- 2 開 会 午後1時
- 3 閉 会 午後1時10分
- 4 場 所 教育委員会室
- 5 議事目録
 - その他 職員の懲戒処分の状況について
 - その他 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム成果発表会について
- 6 出席者等
 - ・出席者の氏名
風張知子（教育長）、平間恵美、新藤幸子、安田 博、松本史晴、中野博之
 - ・欠席者の氏名
なし
 - ・説明のために出席した者の職
長内理事、早野教育次長、高橋教育政策課長、伊藤職員福利課長、下山学校教育課長、小関教職員課長、福士学校施設課長、小館生涯学習課長、坂本スポーツ健康課長、山館文化財保護課長、佐藤高等学校教育改革推進室長
 - ・会議録署名委員
新藤委員、安田委員
 - ・書記
西智明、佐藤栞

7 議 事

その他 職員の懲戒処分の状況について

(教育長)

職員の懲戒処分の状況については、資料のとおりである。何か質問、意見はあるか。
職員の懲戒処分の状況については、青森県教育委員会として了解した。

その他 「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム成果発表会 について

(教育長)

本日予定された案件は以上であるが、午前中に開催された「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム成果発表会に教育委員のみなさんと共に出席した。
教育委員のみなさんから、意見、感想などはあるか。

(平間委員)

本日初めて創造学の成果発表会を拝見したが、大変感激した。
しっかり見ることができたのは3校ほどであったが、どの高校も特色を生かした発表で大変良いものであった。
五所川原農林高校の発表を拝見したが、我が県で唯一林業を学ぶ生徒たちが企業等と連携し、ただ研究するのではなく、その成果を日常生活の中に落とし込み、自分たちがこれからどんな青森県を創っていけるのか真面目に考えていることをとても力強く感じた。
このプロジェクトはこれからの青森の学びを作っていく重要な基礎になると思われる。
継続いただくことをお願いするとともに、今日のような成果発表会の場が今後も必要であると感じた。予算もかかると思うがぜひ継続していただきたい。
私たちもぜひ出席し、生徒たちの経験を拝見させていただきたい。

(新藤委員)

普段の学びを生かした探究や、経験を生かした探究、これまで知らなかった地域資源を探究したことにより、新たな地域の魅力を発見したという感想があり、生徒たちにとって非常に有益な学びになっていることを強く感じた。
中には今回の発表内容を地元の中학생に向けて発表したという学校もあったが、中学校や小学校に出向いて、こういった発表をするのも良いと感じた。
このように発表内容を広げていくということが大事である。

(安田委員)

自分たちの経験と、企業等を取り込んだ高校生のプレゼンテーションの上手さには、本当に感動するものがあった。
関係者だけで見るのがもったいなく、一般の方たちにも見ていただきたいと感じたため、機会があればぜひ発表を広げていただきたいと感じた。
あおもり創造学の発表内容に関しては、これからのコミュニティスクール等にも生かしていけると思っているため、ぜひ今後も続けていただきたい。

(教育長)

今回の発表会は青森ケーブルテレビで放送されているため、そのようなことも皆さんへお伝えしていきたいと思っている。

(松本委員)

今回は5校の発表を拝見したが、それぞれ特色があり、悩みながらテーマを選んだことがよくわかり、非常に感銘を受けた。

特に北斗高校の「ありのままの自分を認めて」という自分たちの経験を元に辛かった思いなどを吐露しており、非常に有意義な発表であったと感じた。

おそらく校内選抜から選ばれたチームが発表していたと思うが、各校の代表チームのみが参加していることがもったいなく、同じ高校でも違うチームの発表も見ることができれば面白そうであると感じた。

どの生徒を見ても、テーマを問わずここまでやり遂げたという結果そのものが生徒たちの力になっているのではないかと感じた。

ぜひ今後も続けていただきたい。

(中野委員)

今日は地元定着率が高いと言われている専門高校の発表を見せていただいた。

農業高校、工業高校のどちらも地域の企業の方と一緒に研究を進めていたということで、大変良いものであると思った。

有識者会議でも話題になっていたが、自分たちの地元にいる「カッコいい大人」を将来のロールモデルとし、「自分もこういった大人になりたい」という思いの中で一緒に活動し、とても良い活動を生徒たちは経験したのだろうと感じた。

また、松本委員からも話があったが、1つの結果を出せたことは本当に素晴らしいことであるとともに、「こういったことがわからなかった」という課題が明らかになっていたのも良かった。全てうまくいったからと終わってしまうのではなく、「こういった課題があり、こういったことが調べきれなかった」というのも実はとても大事であり、それが主体的な学びにつながるのだろうと感じた。

テーマを自分で見つけることはとても難しく、最初のテーマ自体は担当の先生に言われて決めたものかもしれないが、今後の課題を自分たちで見つけていくことが主体的な学びにつながるということを指導のどこかに入れていただければ、さらに主体的な学びにつながっていくと思われる。

柏木農業高校の生徒たちは、発表の最後に「もっと理論を深めていく」と話していた。農業はきちんと理屈の上に成り立っているということを彼らは見つけており、大変素晴らしいことであると感じた。

(教育長)

どの発表も興味深いテーマを考えてくれていたと感じた。

また、この学習を通して探究することや発表することで、それぞれが成長したと思われる。実際発表は短い時間であったが、私たちが問題、課題としているような内容もあり、もっと掘り下げていろいろお聞きし、参考にさせていただきたいものも含まれていた。行政は先生方の視点を捉えているが、こどもはこどもたちの視点でいろいろなことを考えているということを改めて勉強させていただいき、とても感激した。